

---

## 長期透析患者の新型コロナ感染後の療養環境の調整

---

医療法人衆和会 長崎腎病院

○高橋聖子 橋本沙織 丸田麻莉絵 船越哲

### 【背景】

新型コロナ感染症は、ワクチン接種の普及とオミクロン株への置き換わりにより多くは軽症であり、外来透析を継続する流れとなっている。しかし、患者背景から通院困難で隔離入院がやむない症例もある。今回、重度のアミロイドーシスを有する長期透析患者がコロナ陽性となり、通院不能でかつ妻の日常介護が必要で夫婦での入院となった症例を経験した。

### 【症例】

71歳、男性、透析歴40年、要介護5。認知機能低下はないが不安神経症で妻と二人暮らし。透析アミロイド症で関節可動域が小さく、終日妻の付添いが必要であった。【対応】

患者は妻の付添いなしの入院は精神的に耐えられないと訴え、妻と一緒に過ごす事で陽性となる可能性が高いことを了解の上、付添い入院を希望された。妻は退院まで陽性とならなかった。

### 【考察】

新型コロナ感染と通院介護不能のため入院となったが、妻の付添い入院により患者の不安軽減に繋がった。ただ、日常生活介助の目的で、非感染者が感染者と同室で過ごすことに関しては、今後も慎重な倫理的検討が必要と考える。